



2019年9月6日  
公益財団法人イオン環境財団  
AEON CO. (M) BHD.

## —イオンマレーシア設立35年記念—

### 9月14日(土) 第1回「第2期マレーシア ビドー植樹」開催

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役、以下当財団）とAEON CO. (M) BHD.（イオンマレーシア）は9月14日（土）、イオンマレーシア設立35年を記念し、マレーシア北部ペラ州ビドーにおいて第1回「第2期マレーシア ビドー植樹」を実施します。

ビドー周辺では、20世紀初頭にスズの大規模な採掘が盛んに行われておりました。本植樹は、生態系の回復と閉山後の荒廃した地域における森の再生を目指し、3年計画で実施するものです。日本とマレーシアのボランティア合計1,000名の皆さまとともに、35種10,000本の苗木を植樹します。2014年に同地域で実施した植樹本数と合わせると18,000本になります。

イオンの植樹活動は、1991年にマレーシアのジャスコマラッカ店（現 イオンマラッカショッピングセンター）にて地域のお客さまとともに店舗敷地内で植樹することから始まりました。以来、イオングループでは、アジアを中心に世界各地で植樹を行っており、現在の累計本数は1,193万本を超えました。

当財団は、今後も、いのちあふれる美しい自然を次代に引き継ぐため、植樹活動をはじめとする環境活動に積極的に取り組んでまいります。

#### 記

日 時：2019年9月14日（土） 9時30分～10時30分  
場 所：マレーシアペラ州ビドー  
植樹面積：7.5ha  
植樹本数：10,000本  
参加人数：1,000名  
樹 種：サガ、プライ、ブルネイ、メランシメラ、ビンタンゴなど35種  
主 催：公益財団法人イオン環境財団、イオンマレーシア  
協 力：マレーシア森林協会、国内取引消費者省、水・国土・天然資源省、ペラ州政府  
主な参加者：国内取引消費者省 大臣 サイフディン・ナスチオン様  
（予定）水・国土・天然資源省 大臣 ザビア・ジャークマール 様  
公益財団法人イオン環境財団 専務理事 林 直樹  
イオン株式会社 副社長 岡崎 双一  
AEON CO. (M) BHD. 社長 鷺澤 忍

以上

## ご参考

### 【公益財団法人イオン環境財団について】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、1990年に設立されました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や、国内外での植樹活動、生物多様性への取り組みを主な事業として、さまざまな活動を継続しています。イオンの植樹は1991年のスタートから数え、当財団の植樹本数を合わせて累計1,193万本（2019年2月末時点）を超えています。  
(イオン環境財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>)

### 【マレーシアにおけるイオン環境財団の取り組みについて】

#### ■イオンのふるさとの森づくり

1990年の当財団設立以来、ボランティアの皆さまとともにマレーシアをはじめとする世界各地で植樹を行っています。マレーシア国内における植樹本数は、「ふるさとの森づくり」と併せ、累計で540,000本を超えました。

#### 【2004年、2008年、2009年 マレーシア植樹パヤインダウエットランド】

2004年にジャヤジャスコ（現イオンマレーシア）が設立20周年を迎えたことを記念し、クアラルンプール郊外に位置するウエットランド自然保護区にて30,000本の植樹を行いました。また、2008年、2009年にも同地区にて植樹を行い、累計植樹本数は、54,800本となりました。



2004年

マレーシア植樹（パヤインダウエットランド）



2007年

マレーシア植樹（パヤインダウエットランド）

#### 【2004年、2008年 マレーシア「オランウータンの森」ボルネオ植樹】

ボルネオ島キナバタンガン川流域の木材伐採とパームヤシ造成で荒廃した自然林を、オランウータンなどの野生動物保護のために、森の再生を目指し、日本とマレーシアのボランティアの皆さまとともに800本を植樹しました。



2004年マレーシア ボルネオ植樹

### 〔2014年 第1期マレーシアビドー植樹〕

ペラ州ビドーでは、生態系の回復と緑あふれる森の再生を目指し、日本とマレーシアのボランティア合計1,000人の皆さまとともに地域に自生する木々30種8,000本を植樹しました。



2014年マレーシア ビドー植樹

## ■環境教育

### 〔アジア学生交流環境フォーラム〕

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする、「アジア学生交流環境フォーラム」を2012年より実施しています。なお、昨年度の第7回では、マレーシアのマラヤ大学で開催し、プログラムの一環として、クアラ・



第7回ASEP開講式（マラヤ大学内）

セランゴールにて500本の植樹も行いました。第8回目となる今年度はカンボジアにて、10ヶ国合計80名の学生が参加しました。

## ■パートナーシップ

### 〔生物多様性アワード国際賞「みどり賞」〕

生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として、「生物多様性みどり賞（国際賞）」と「生物多様性日本アワード（国内賞）」の2つのアワードを創設し、隔年で顕著な環境保全活動が認められる個人・団体を顕彰しています。2018年度に開催した第5回「生物多様性みどり賞（国際賞）」では、前マレーシア首相付科学顧問のアブドゥル・ハミド・ザクリ氏が受賞されました。



第5回「生物多様性みどり賞」授賞式

## 【公益財団法人イオンワンパーセントクラブ（以下、イオン1%クラブ）について】

1989年、企業の業績にかかわらず継続的に活動するため、グループ主要企業各社が税引き前利益の1%を拠出し、「次代を担う子どもたちの健全な育成」「諸外国との友好親善の促進」「地域社会の持続的発展」を柱として活動しています。

(イオンワンパーセントクラブホームページ <http://aeon1p.or.jp/1p/>)

## 【マレーシアにおけるイオン1%クラブの取り組み】

### ■ 諸外国との友好親善の促進

#### 【ティーンエイジ アンバサダー（高校生交流）】



ティーンエイジ アンバサダーは、日本と海外の高校生が互いの国を訪問し、国際的な相互理解と親交を深める交流事業です。2019年8月現在での交流人数は2,670名に上ります。これまで、マレーシアの高校生とは1990年と2001年に2度交流をしています。

#### 【アジア ユースリーダーズ】



アジア ユースリーダーズは、異なるバックグラウンドを持つアジア各国の若者が一堂に会し英語を共通言語として開催国の社会問題をテーマに議論を行い、問題解決力やグローバル感覚、価値観の多様性について理解を深めることを目的に実施しています。

10回目の2019年はハノイで開催され、マレーシアを含む計9カ国（中国、インドネシア、日本、タイ、ベトナム、カンボジア、ミャンマー、ラオス）の次代を担う高校生たち115名が参加しました。

#### 【イオン スカラシップ】



イオン スカラシップは、アジアの大学生および日本で学ぶアジアの私費留学生を対象とした給付型奨学金制度です。将来、日本とアジア各国をつなぐ架け橋となっほしいという願いのもと2006年に開始しました。

年間を通じた経済的支援のほか、日本で学ぶ奨学生を対象に、研修やボランティア活動の機会を提供し、グローバル人材への成長を目指す学生のサポートを行っています。これまでに、マレーシアから日本への留学生累計25名に対し、支援を行っています。